

氏 名 三原 崇文
学位記番号 医博乙第235号
学位授与年月日 平成18年1月11日
審査委員 主査 教授 原田 孝之
副査 教授 富岡 治明
副査 教授 山口 清次

論文審査の結果の要旨

Helicobacter pylori(HP)感染胃炎では逆流性食道炎(reflux esophagitis, RE)の発症要因の1つである胃酸分泌に変化がありうることから、申請者はHP陽性RE患者の胃炎の特性を明らかにすることを目的に、胃粘膜病変を内視鏡的および病理組織学的に解析した。所属教室のアーカイブから選ばれた胃酸分泌に係る治療歴のないHP陽性RE41例では、粘膜萎縮と腸上皮化生は軽度、単核球浸潤による炎症程度および好中球浸潤による炎症活動程度から胃炎は幽門部優位であること、HP密度は幽門部、体部ともに高いことをみいだした。これら炎症の特徴は、対照として選択された十二指腸潰瘍群の胃炎のそれと類似し、粘膜萎縮が高度で体部胃炎優位であることを特徴とする早期胃癌群とは異なっていた。本論文は、胃粘膜萎縮が軽度で幽門部胃炎優位のHP陽性RE患者での胃酸分泌亢進を示唆するものであり、REにおけるHPの発症要因としての評価に方向性を与えるものである。また、臨床材料を解析する際の着眼点の重要性をも示している論文である。